

世界日報

91年4月15日

日韓トンネルを見学

日韓鉄道労組代表12人

佐賀県鎮西町

JR総連の福原太郎委員長、韓国全国鉄道労組の陳道労組代表各六人が十四



日韓トンネルの調査斜坑掘削現場を視察する日韓鉄道労組代表14日、佐賀県鎮西町で

日、佐賀・鎮西町で掘削が続けられている日韓トンネル調査斜坑を見学した。

昨年、韓国側がJR総連とJR東労組を招待した答礼として、今回日本側が八日から韓国労組を招いて親睦を深めていた中で、実現したもの。JR総連は運動方針として、

韓国―北朝鮮を通じてソ連・モスクワに至る「平和列車」の構想を掲げている。

今回初めて同トンネルを見学した福原委員長は「雄大な計画で感激した。今後モファイトをもってやりたい」と意欲を示した。これに対して韓国の陳部長も「企画を聞いた時は難しいと思ったが、実際に見て、奇跡が起こっているじゃないかと思った。短期間で実現できることを確信している」と語った。

同トンネルは、国際文化財団の創設者である文鮮明師が一九八二年の「第十回科学の統一に関する国際会議」で提唱した、世界を高速道路で結ぶ国際ハイウェイ構想の一環で、日本と韓国の間にトンネルを通し、鉄道と道路で結ぼうというもの。

現在、鎮西―吉岐の間に、深さ四百メートルの調査斜坑（将来のパイロットトンネル）が掘られている。